万亭應賀著
一陽齋豐國画

# 風流婦女古十二編

嘉永二巳酉新刻

へ13
3836
5

万亭應賀作
錦重堂版
上

門へ13
3836
54カ

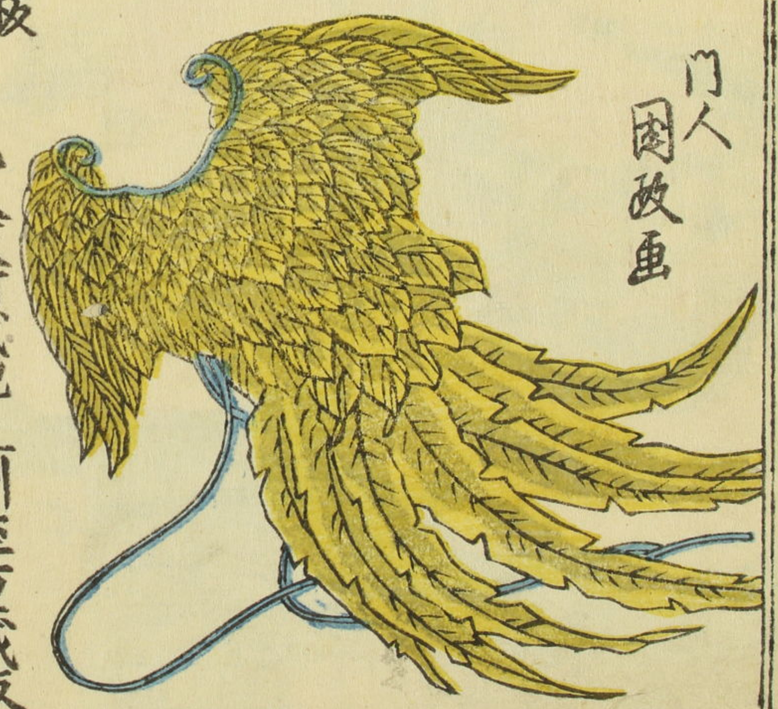
# 万亭應賀作

歌川齋豐國画

# 釋迦八相

# 倭文庫 十編 上帙

嘉永二年己酉春新板



門人 國政画

元大阪町代地 上州屋重藏版

一

## 釋迦八相倭文庫拾壹編之叙

夫経も唄ふらくべ則唄ふすべ唄も又経ふ續べ則経也されば唄ふすべ此冊紙の巻々も大乗妙典と看時ふ一佛乗の道ふ入べ茲をとりて邪正ハ一如卯月八日天上天下唯我独尊の仏姿左のお手ハ郭公とふ身形右のれ指ふ初松奥てろ麓んかけ糸のれ仕案貝るぞ相立の費言ハ提婆ぞ仏のふ戯まさて耶輸陀羅女ぞ憂愛艱労を倭育の女氣質ふ擬へて奉公ふる身の人情を述る而已

嘉永二年己酉の春

万亭應賀誌

跋迦仙人

悉達太子



阿羅仙人

神童子

悉達太子檀特山ふ登り阿羅々仙人と師と
まで寶冠衣服
車匿ふ持せ
王宮へ遺物ふ送り
舍人車匿

悉達太子密ふ迦毘羅城と
立出あり跡ゑ王宮騒動
三女及び宮守の武官官女の
輩鞠問ふあ　于時周昭王
四十四年二月八日
日本へ鸕鷀草葺
不合尊庚寅
の日ふ當る

優陀夷





耶輸陀羅女

老女

南花女

鹿野女

車の匿の女房

瞿陀弥女

仲麻呂

東のく

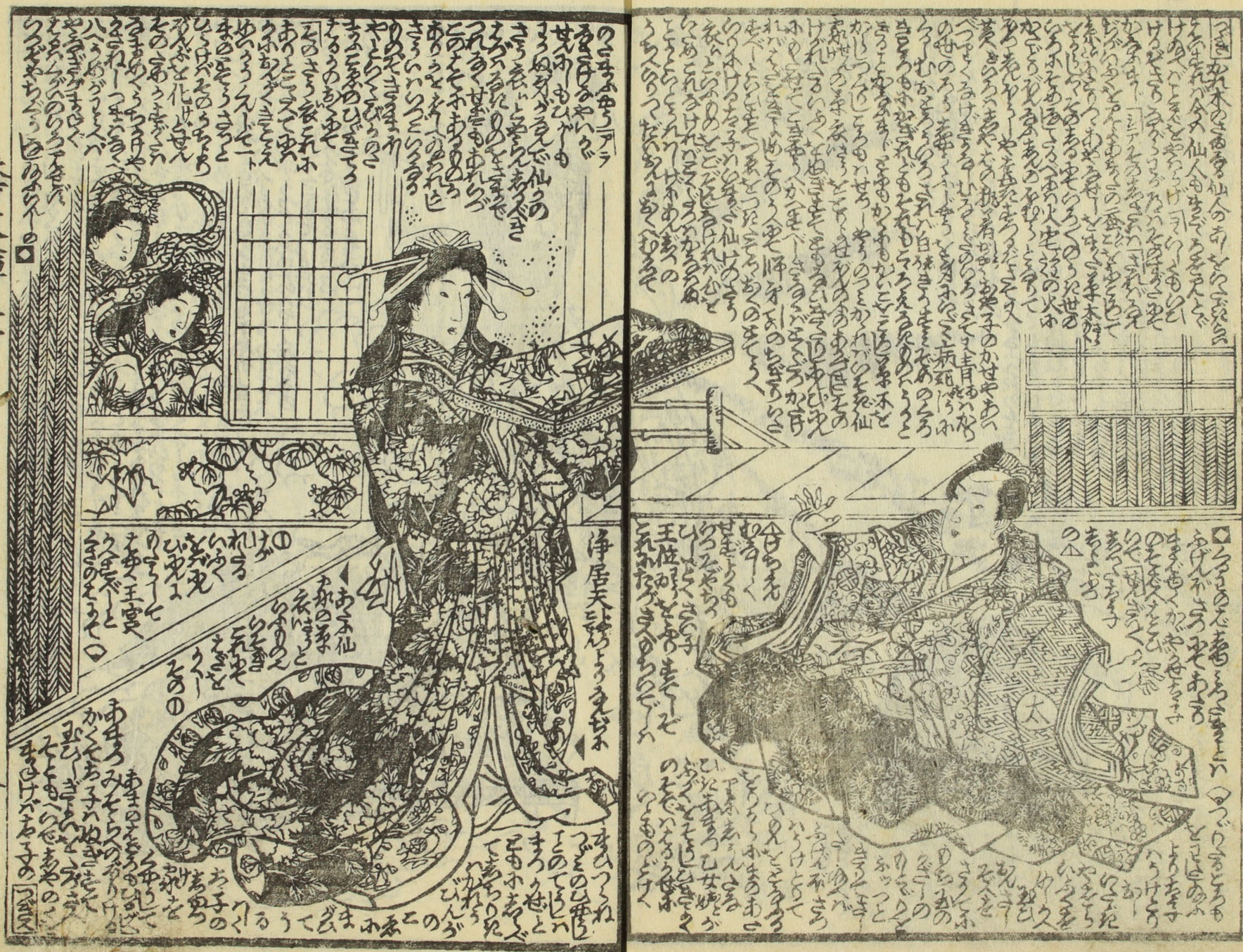
車
童

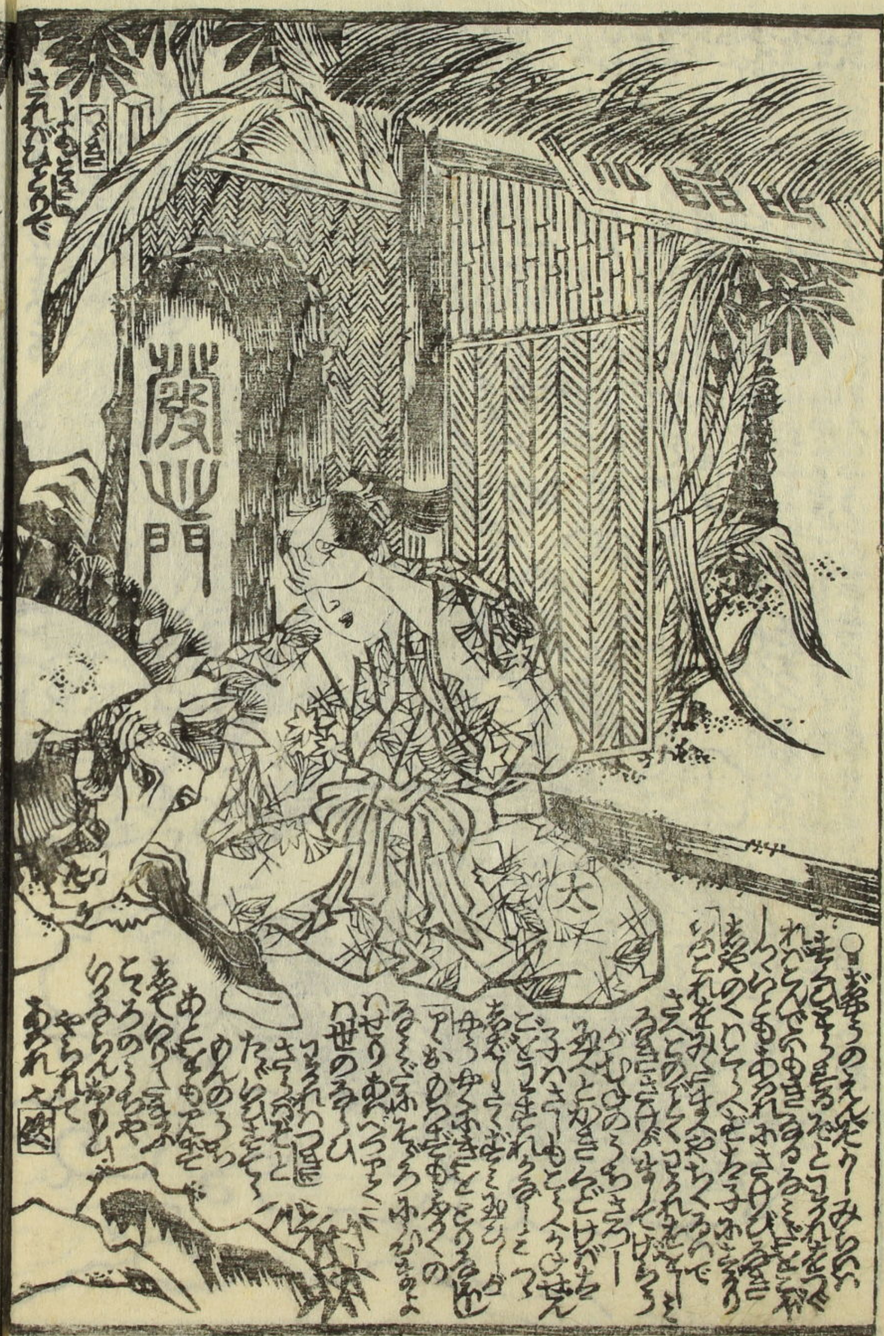
つゞき あのつけられたる子いとくさいイヤそれやおの[illegible]とあらはしてきえおもひけらおそのそこはかくおのさのをとろきれらの[illegible]人とあとつゞめとさまいあるとま[illegible]十おくふくとのおさまいぞおしのそ「ハテ[illegible]とらふやそこおきゆえいまだこれぞえいあとまいのくとやめのきさ[illegible]女さうせ「さてはつがさわその[illegible]をかくまうさえよくさむまづ大夷人のまみへもつてかそもあんどうそのえんめ母のまそとこ年ちぢめつく[illegible]え[illegible]のらとそうふおんあの[illegible]のおぼれおぼそ十[illegible]のらわまつぞまでもそめこ大の后きちよびけつけハ

あまりの官女だちよの[illegible]をおわちぞせわたす[illegible]すもよ文

宮中とあのおそろんだまのめやくえんおもちどとゞらへそのさいせお大くるぞにそこれても父のおんは天かくとり山よりれく母のおんは[illegible]かくどうのうようもなれよりはさうとたとのあんとおそゞけるつと六八へ千世いのつちのとはあろうとのあさどのせんぞとうとむるとものそのぞのか[illegible]べれのそぎあまた天くされよとそくさときされあつて子いむまさ[illegible]へわぎさくなるとひくめもあつきの神仙せん[illegible]れ[illegible]でそかい師いる[illegible]とおてもよろせたのさまさ[illegible]のあわせとさてもおよそあめつちひらとのくともとの身一つのおうまつ[illegible]たちまるむむまた[illegible]むやあんわ[illegible]のさいへさすまいとりつこれおろまん[illegible]れとつそくるどこれまでのつゝもさいとわか[illegible]さかもでさいめつゝつむら水きとくえおきそれいいゝぬあわれたと大命をまくままおきとそもまこてもひとひなとのこまよとまお仙人はまとじのおろそ

十せんの君のおそかくさまのひともとをふた[illegible]ぐいてみちふのまちかのぞ[illegible]




関所門
大

車

釋迦八相倭文庫 十編 十編 万亭應賀作 十三編 十四編 陽齋豐國画

忠義誠赤松譚 四編 五編 如淵外史作 六編 七編 陽齋豐國画

神代藻塩草 初編 二編 万亭應賀作 陽齋豐國画

紫菜淺草土産 四編 十返舍一九作 五編 陽齋豐國画

日蓮記旭衣 初編 二編 万亭應賀作 陽齋豐國画


金繪草紙錦本類 元大坂町代地角 上州屋重藏版

# 倭文庫十一編

一陽齋豐國画

下

庶幾化
きう国画

毎篇合本上下二冊

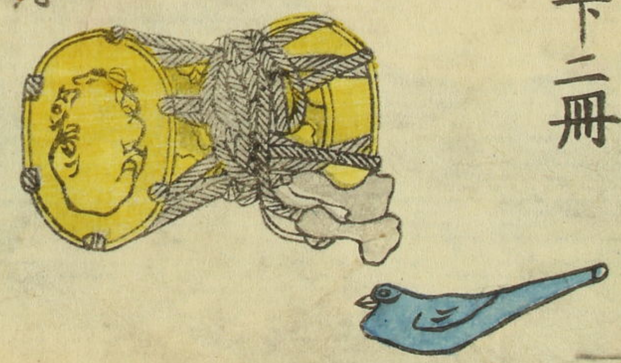
門人国政画

# 傾城屋十二編 下

元大坂丁代地

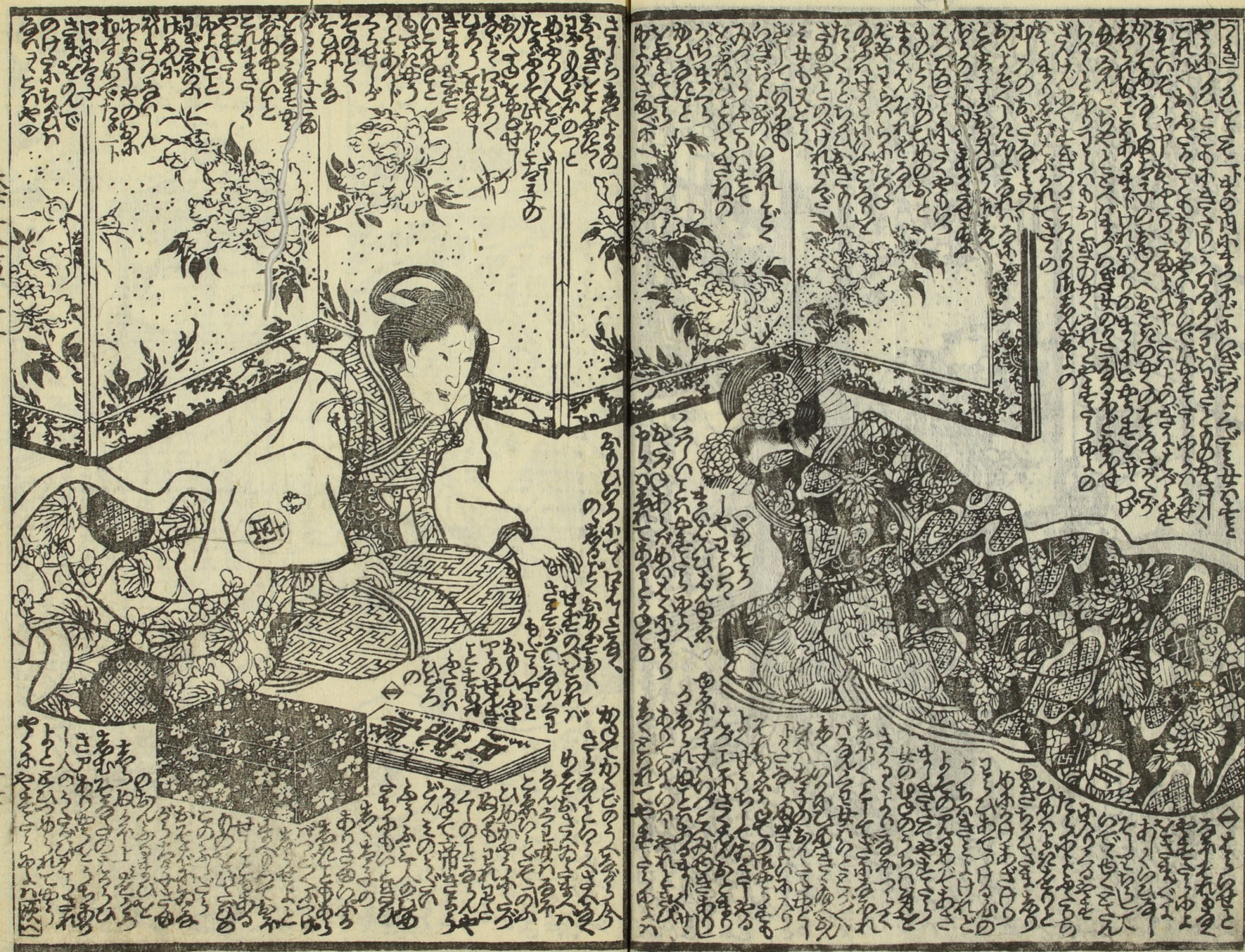
乙酉春新刊

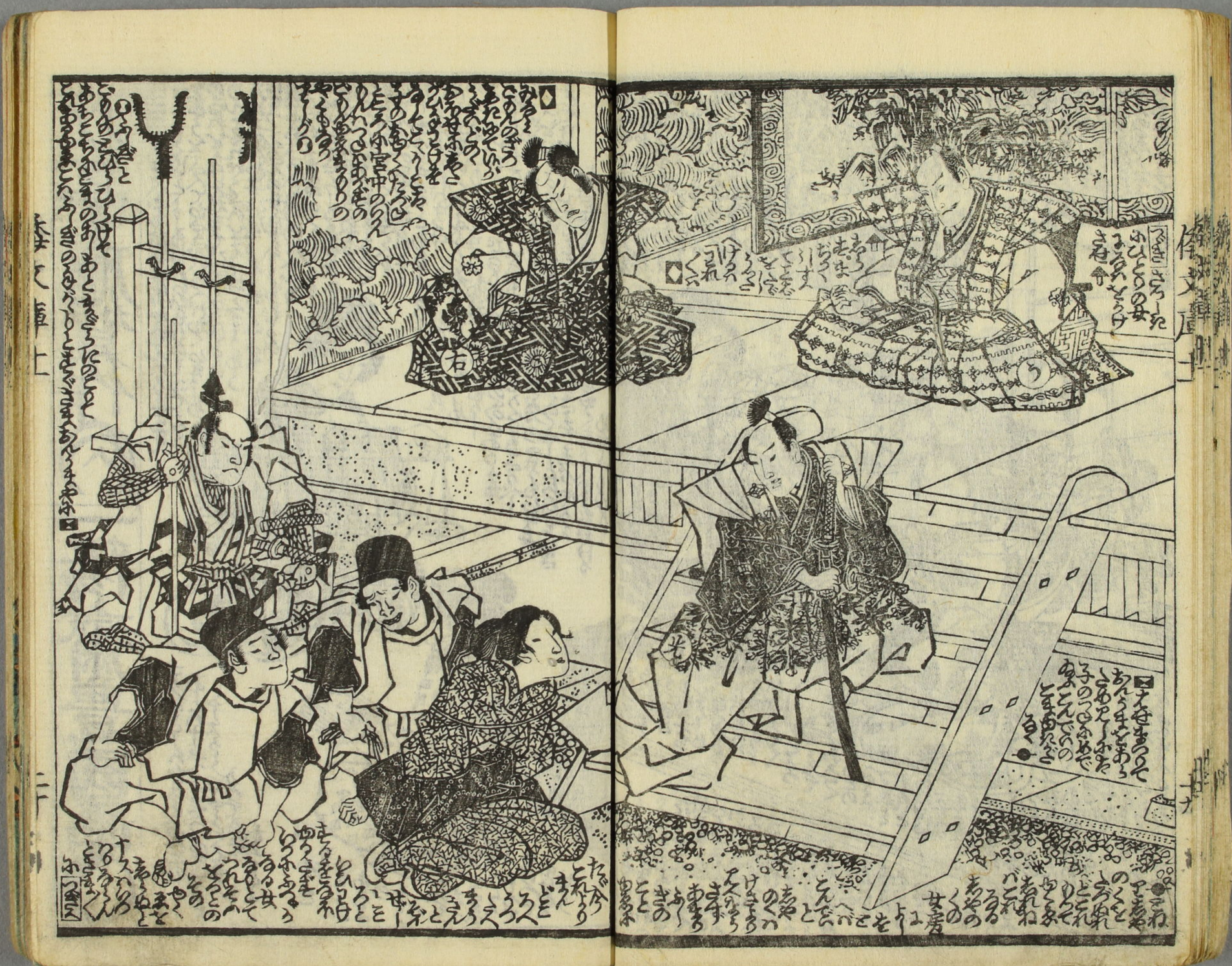
上方屋喜兵衛



女
雜

女
雜





# 万亭應賀作 陽齋豊國画

## 嘉永二年己酉春新板目録

奥奉公編娘一代成人双六　万亭應賀作　陽齋豊國画

倭文庫太子双六　万亭應賀作　陽齋豊國画

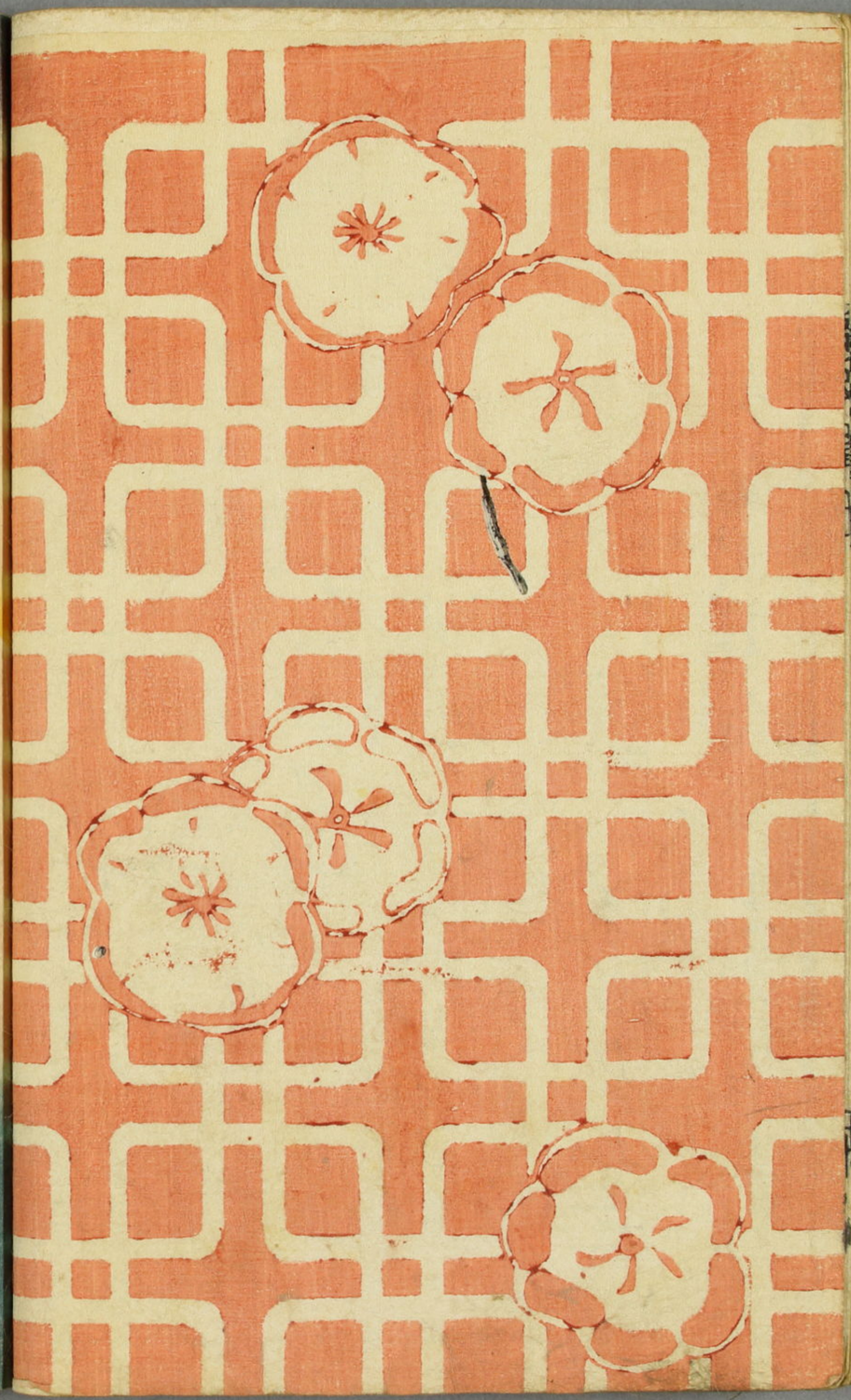
武藝立身館双六　万亭應賀作　陽齋豊國画

奥奉公出世双六　万亭應賀作　陽齋豊國画

将棊双六　万亭應賀作　陽齋豊國画

金地本錦繪團扇所　元大坂町代地角　上州屋重藏版

倭文庫拾貳編



# 釋迦八相倭文庫 十二編 上之巻

巳酉ノ春 新板

万亭應賀作

一陽齋豊國画

錦重堂梓

釋迦八相倭文庫拾二編の序

夫悉達太子静夜犍陟跨車匿を倶して因心急流の大河を踰れば帝釋及び四天王駒の前後を囲繞して一夜のうちに一千二百余里を経て檀特山の寶山領跋伽仙林に至り寶冠瓔珞を車匿に渡し父王へ送り御剣を抜て自髪を剃て仙家の草衣を着し其の時に帝釋太子の髪を天上へ推乃へて塔を建させ車匿に太子の姿を見てふく実し犍陟も悲鳴して別れて京師へ帰る八相のうち是を第四の出家といふされば是等の短説ふ擬き編をたぐりて牛ぬる時もけとく嵯峨の釋迦東都ふちのて開扉の折ふるれびとを忍迫く例の板元ゞ催促の使を待せて仮そのたゝ書をかゝ加へるのまゝ

嘉永二年巳酉の春

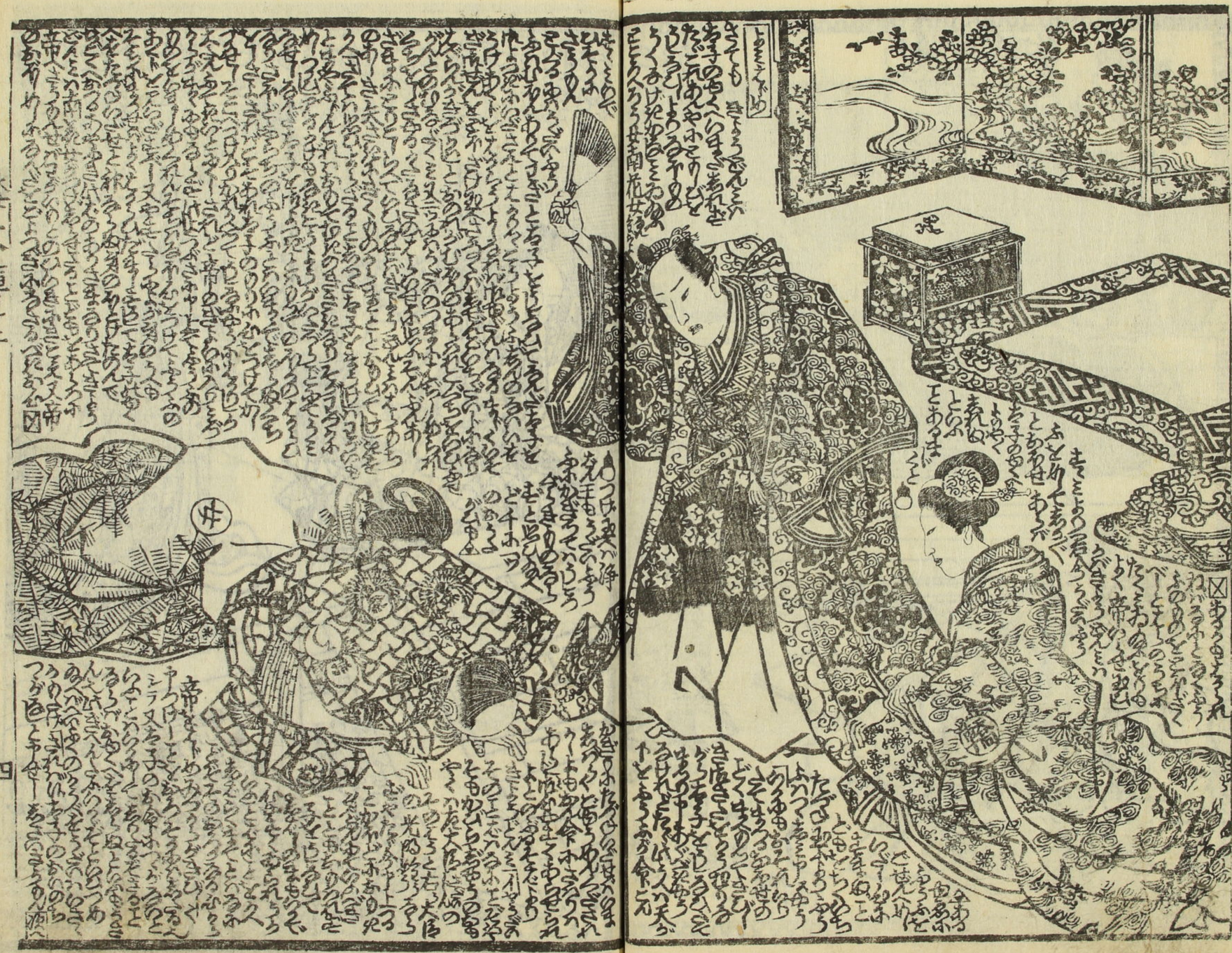
一万亭應賀誌

右將軍
舍人
車匿

右將軍勅を受家より
官人駕輿丁御輿を舁せ
車匿を案内して檀特山へ悉達太子の御迎ひ
參る
撿非違使

老女
南花女
輪雲
弥
優陀
夷
立合

方の
伯了
吟味
弥の御前
輪雲
夷夫婦
優陀
夷の女房
優陀
夷の
家来
侍
提婆
伯
孫
雑式の所
縄



三香
御長暖
長持

嘉永二年己酉春新板目録

奥奉公二編娘一代成人双六　万亭應賀作　陽齋豐國画

倭文庫太子双六　万亭應賀作　陽齋豐國画

武藝立身舘双六　万亭應賀作　陽齋豐國画

奥奉公出世双六　万亭應賀作　陽齋豐國画

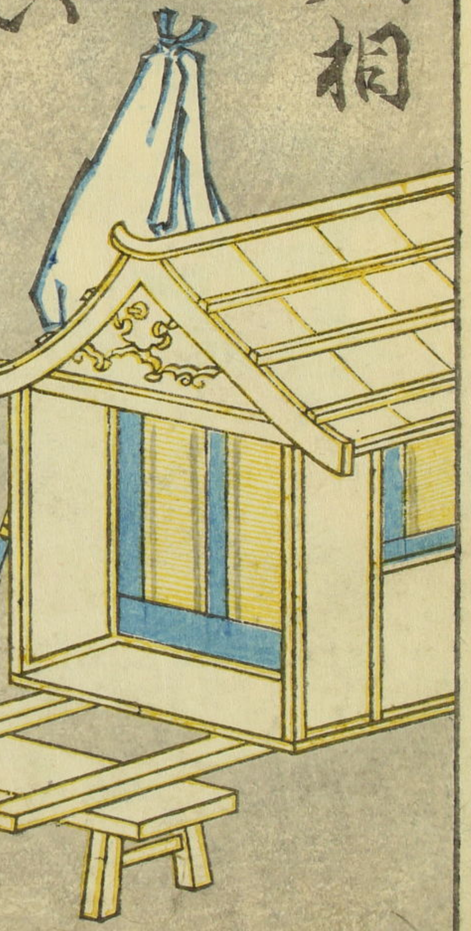
將棊双六　万亭應賀作　陽齋豐國画

元大坂町代地角

重地本錦繪團扇所　上州屋重藏版

万亭應賀作
一陽齋豊國画
嘉永二年
巳酉春
新彫
上州屋版
下

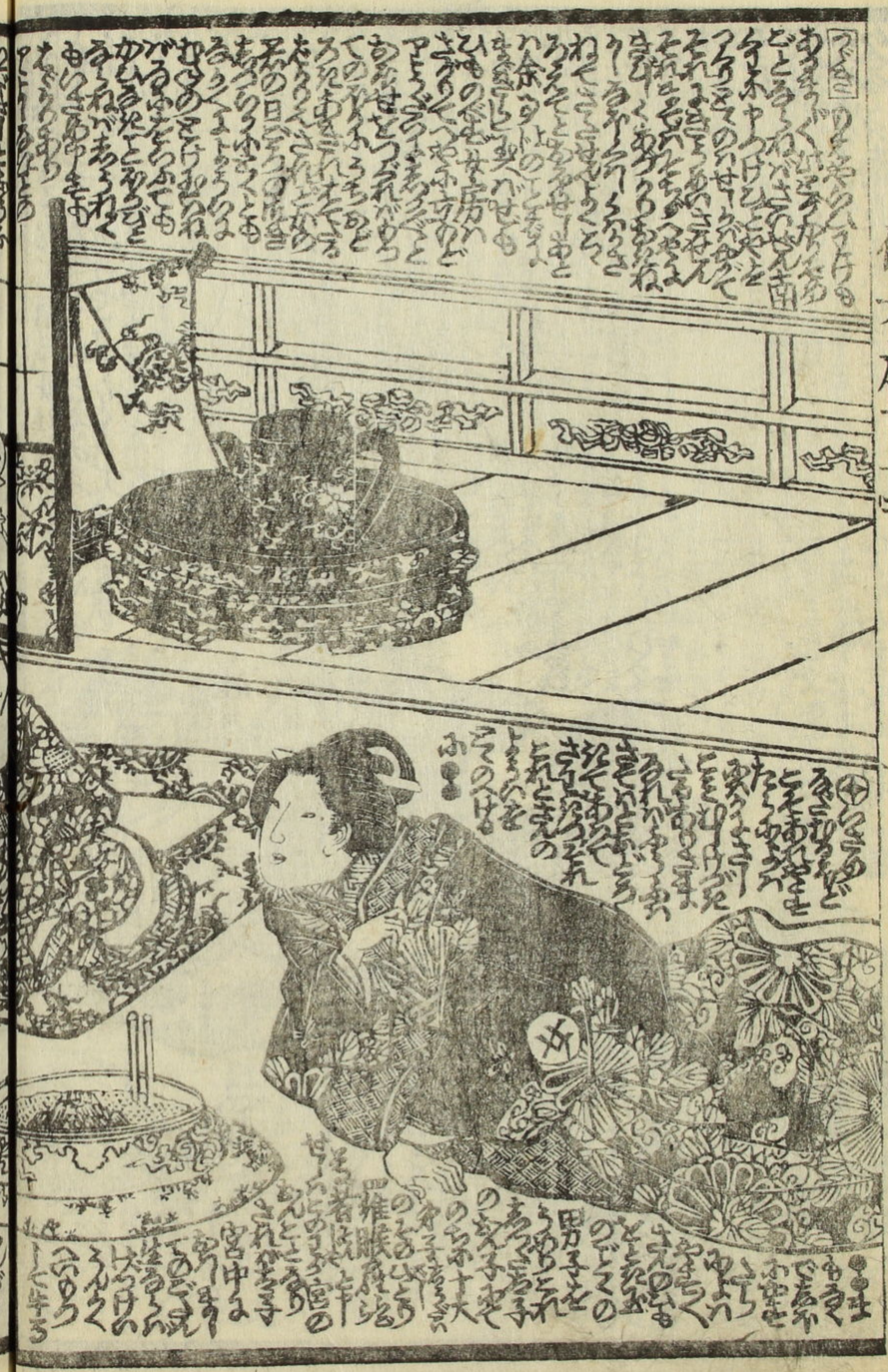
釈迦八相
屋敷
ぬんの
格式屋敷
下絵



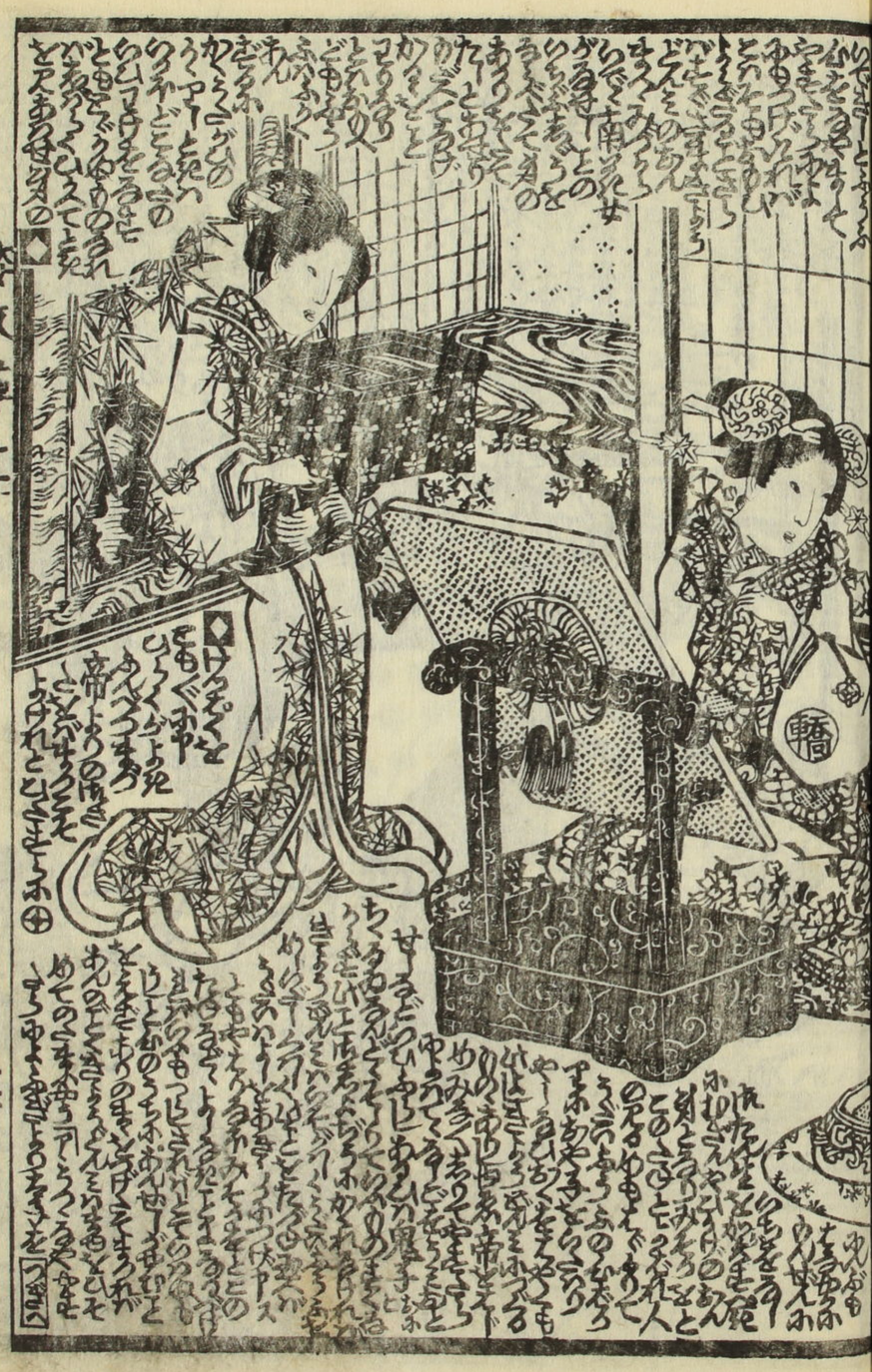
慶賀作
豊国画

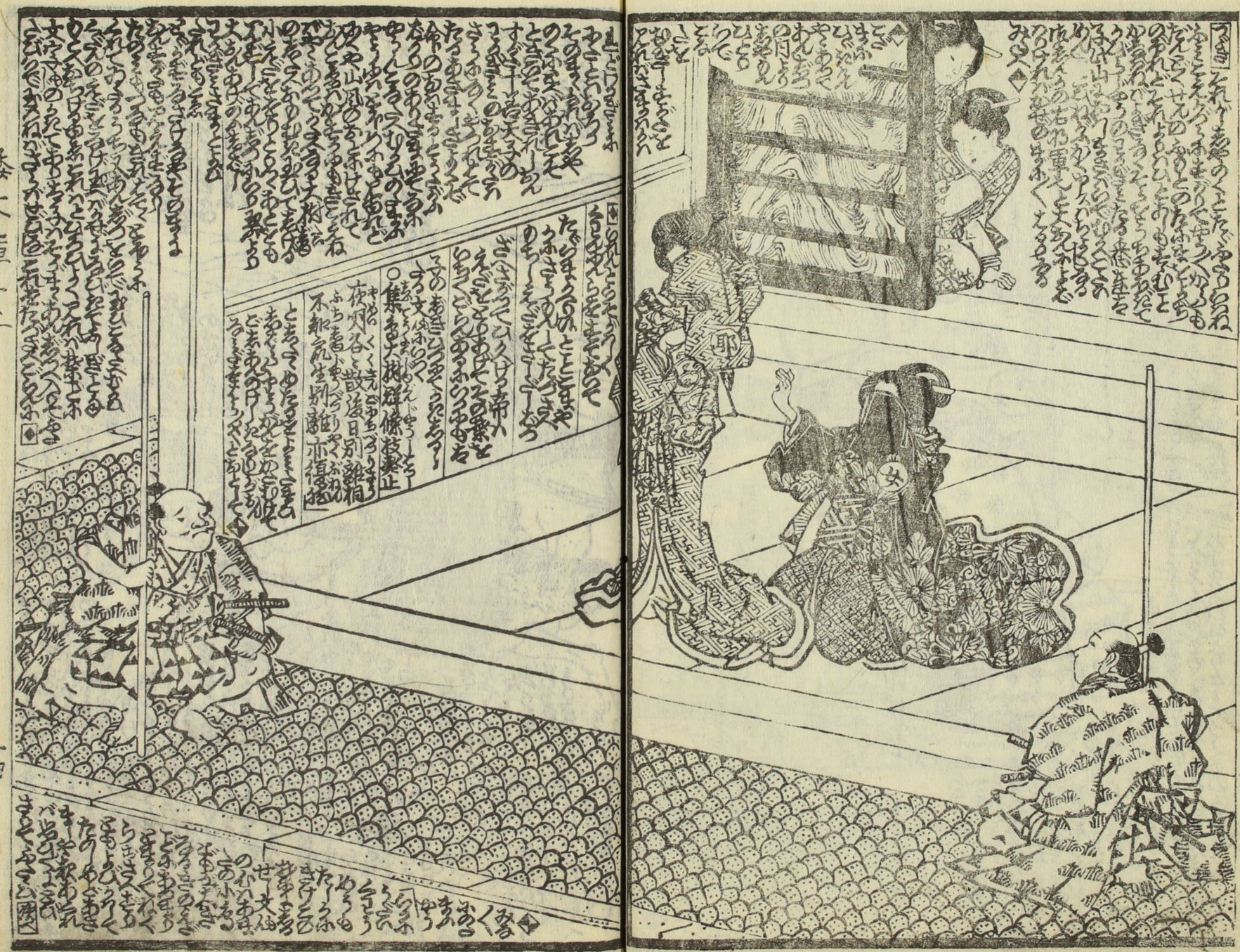
元大坂町代北
門人國政画

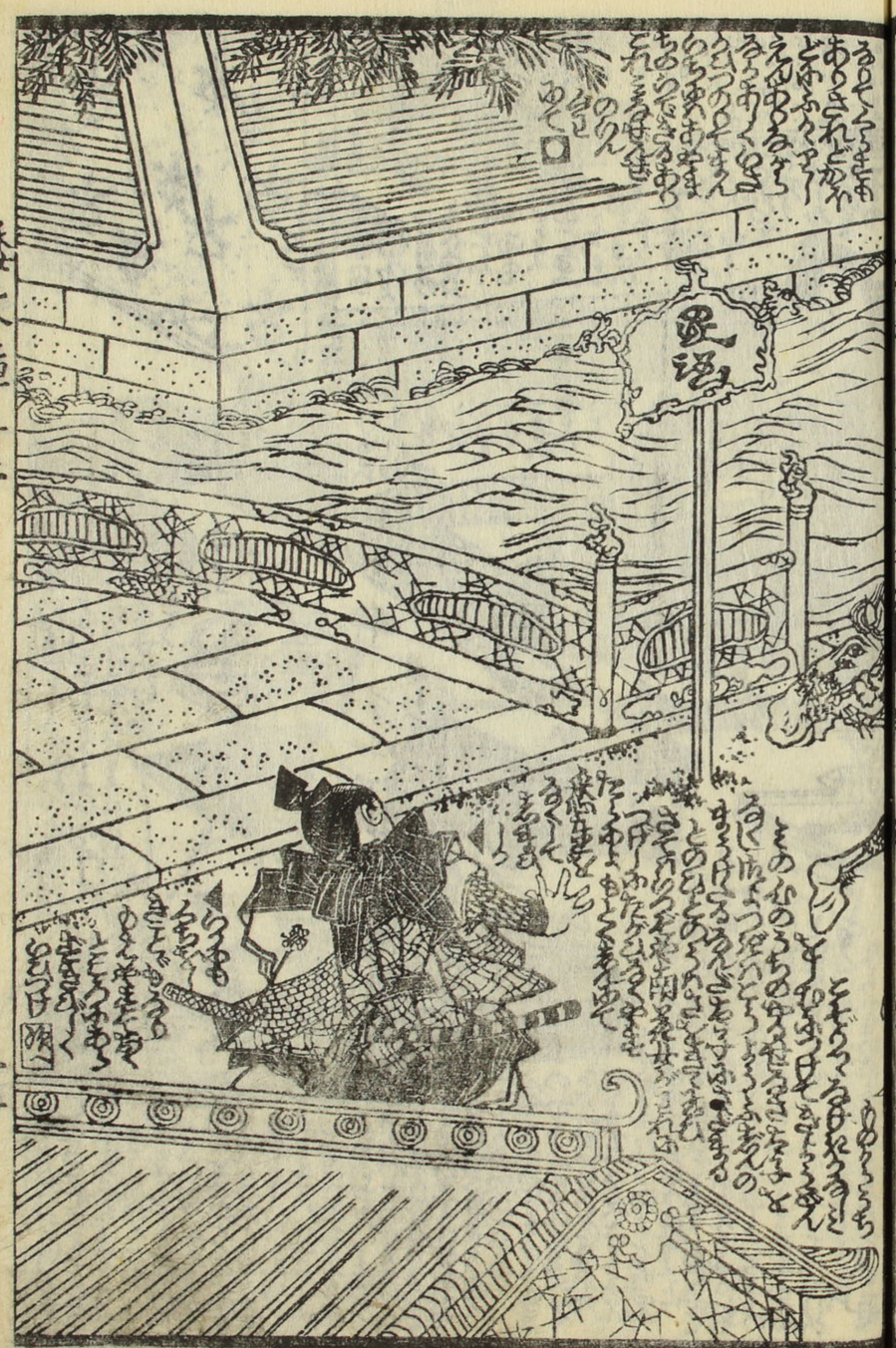
大阪屋重義発行



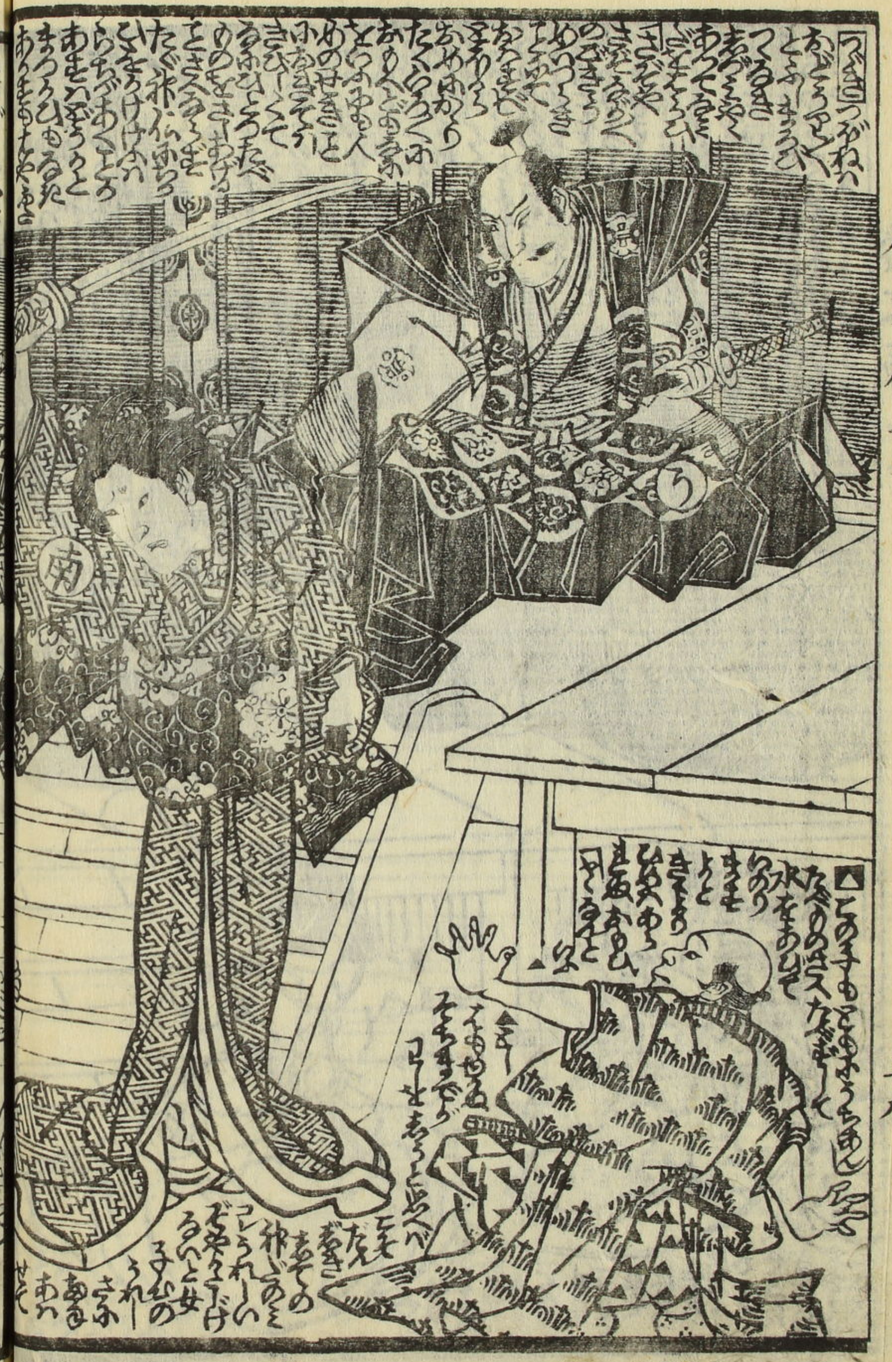




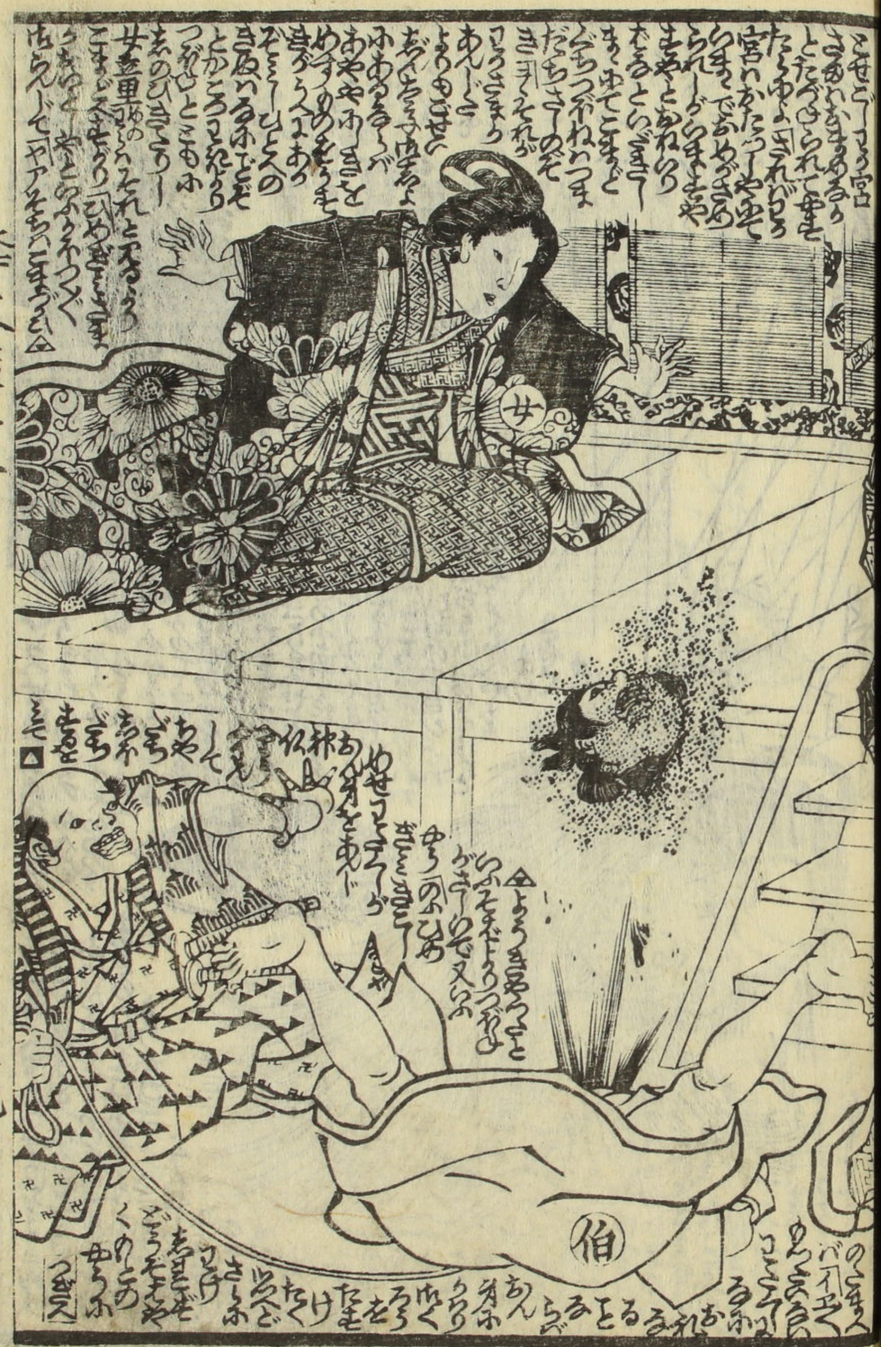


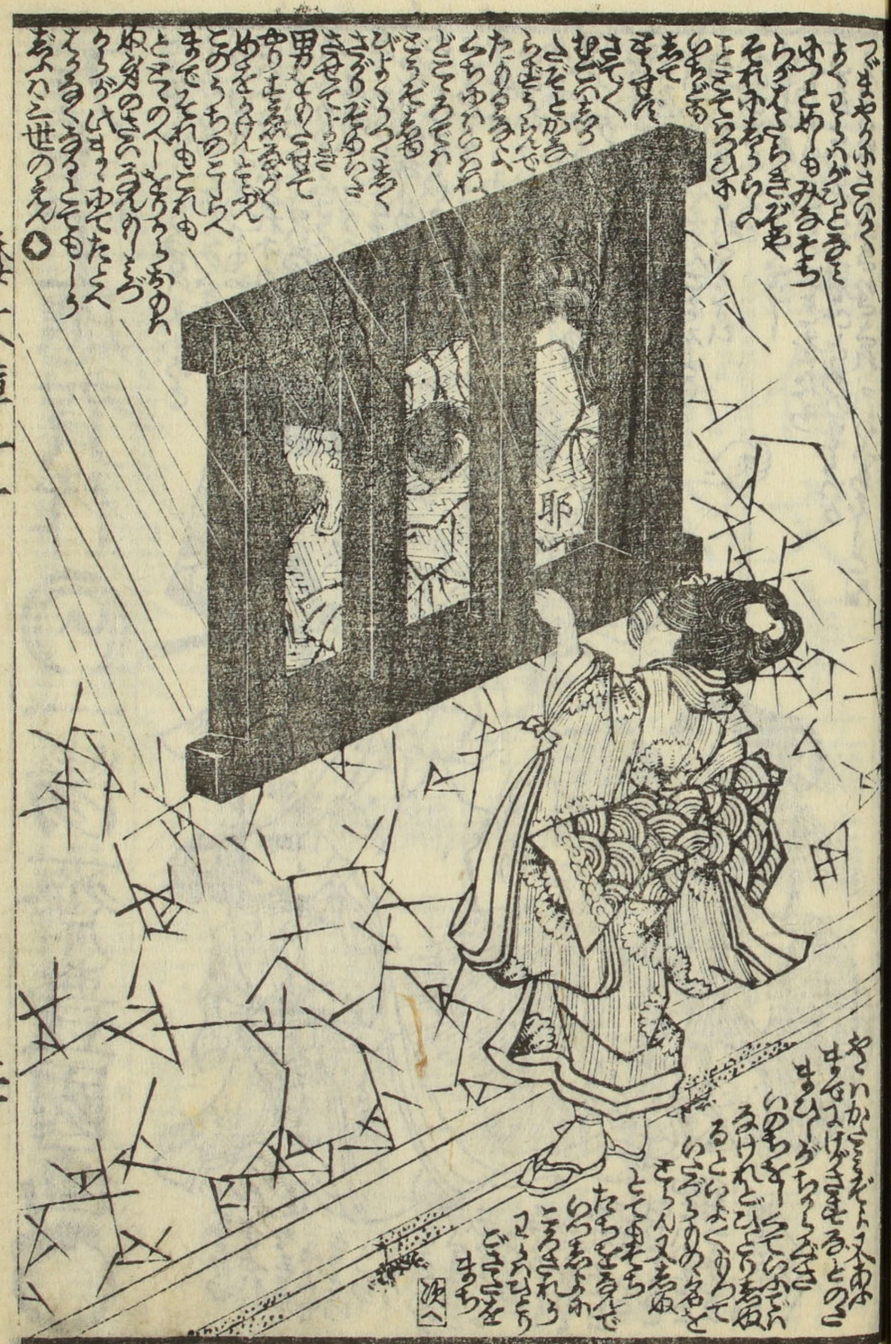

毘沙

南
伯


つぎは
南
う




女
伯



# 錦重堂新板繪草紙目録

釋迦八相倭文庫 十編 十一編 十二編 万亭應賀作 一陽齋豐國画

忠義誠教赤松譚 四編 五編 六編 七編 如淵外史作 一陽齋豐國画

神代藻塩草 初編 二編 万亭應賀作 一陽齋豐國画

紫菜淺草土産 四編 五編 十返舍一九作 一陽齋豐國画

日蓮記旭衣 初編 二編 万亭應賀作 一陽齋豐國画

重繪草紙錦繪本類 元大坂町代地角 上州屋重藏版

# 万亭應賀作 一陽齋豐國画

倭文庫十四編

万亭應賀作

上

やまと文庫

十二編

万亭應賀作

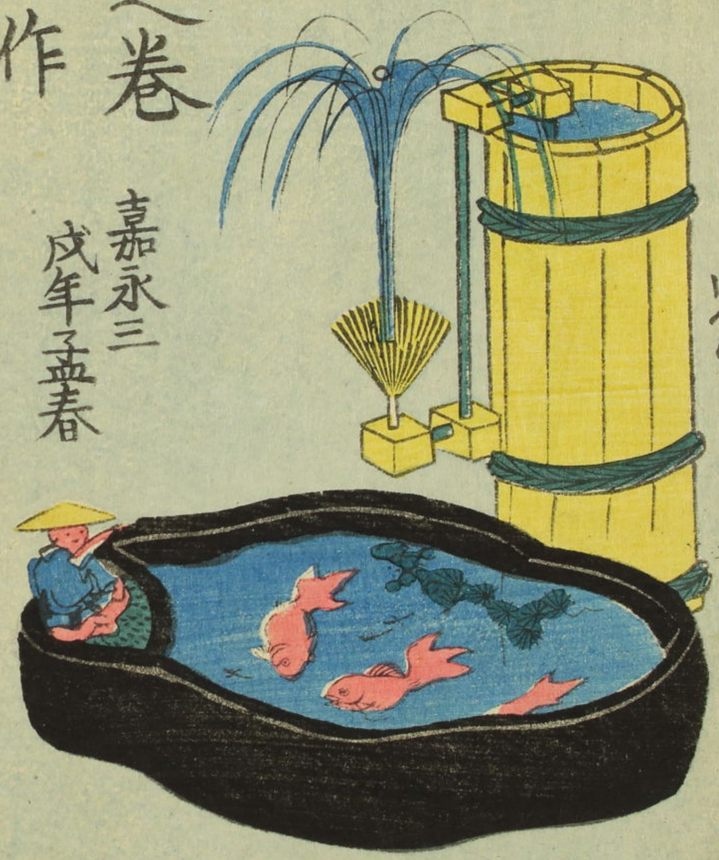
一陽斎豊国画

嘉永二己酉春新板

# 倭文庫

## 十四編 上之巻

應賀作



嘉永三
戊年孟春

豊國画　元大阪新式地角　上州屋重蔵版



釋迦八相倭文庫十四編之序

夫如来大悲の法雨八五天笠ホ濺ひで漸震旦ホ漫り四夷ホ溢
吾朝ホ流れ来ると今在世と去ること二千八百餘年ホ至るまで
遺法の弟子達大教と宣揚しく上ら貴人高家より
下ハ万民漁夫樵夫鳥獣魚鼈ホ至るまで法雨の甘茶と堂昔
ぬいるしくされバ予も其甘茶と堂て唯夢茶苦茶と甘口ホ
人を茶ホさる戯作の業ハ佛を穢し徒夫と誹謗き
笑ひさるこそも鬼角浮世ハ釋迦ムで道楽寺鼻の
下喰殿の建立也

嘉永三庚戌年
孟春吉旦發行

万亭應賀誌

般若菩薩の
伽四維々仙人を
尋る
神童子

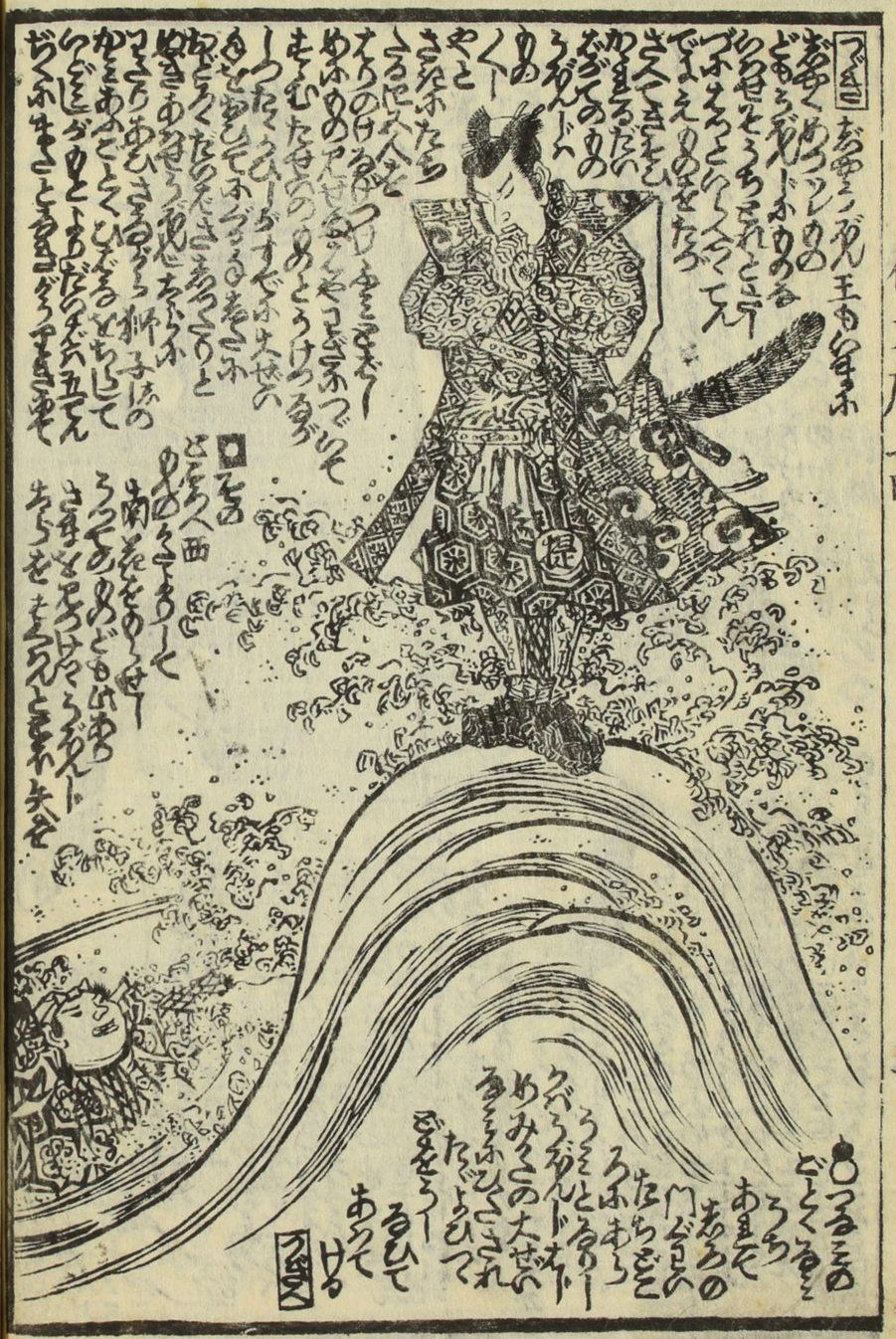
悉達太子
檀特山と立出て
阿羅々仙人

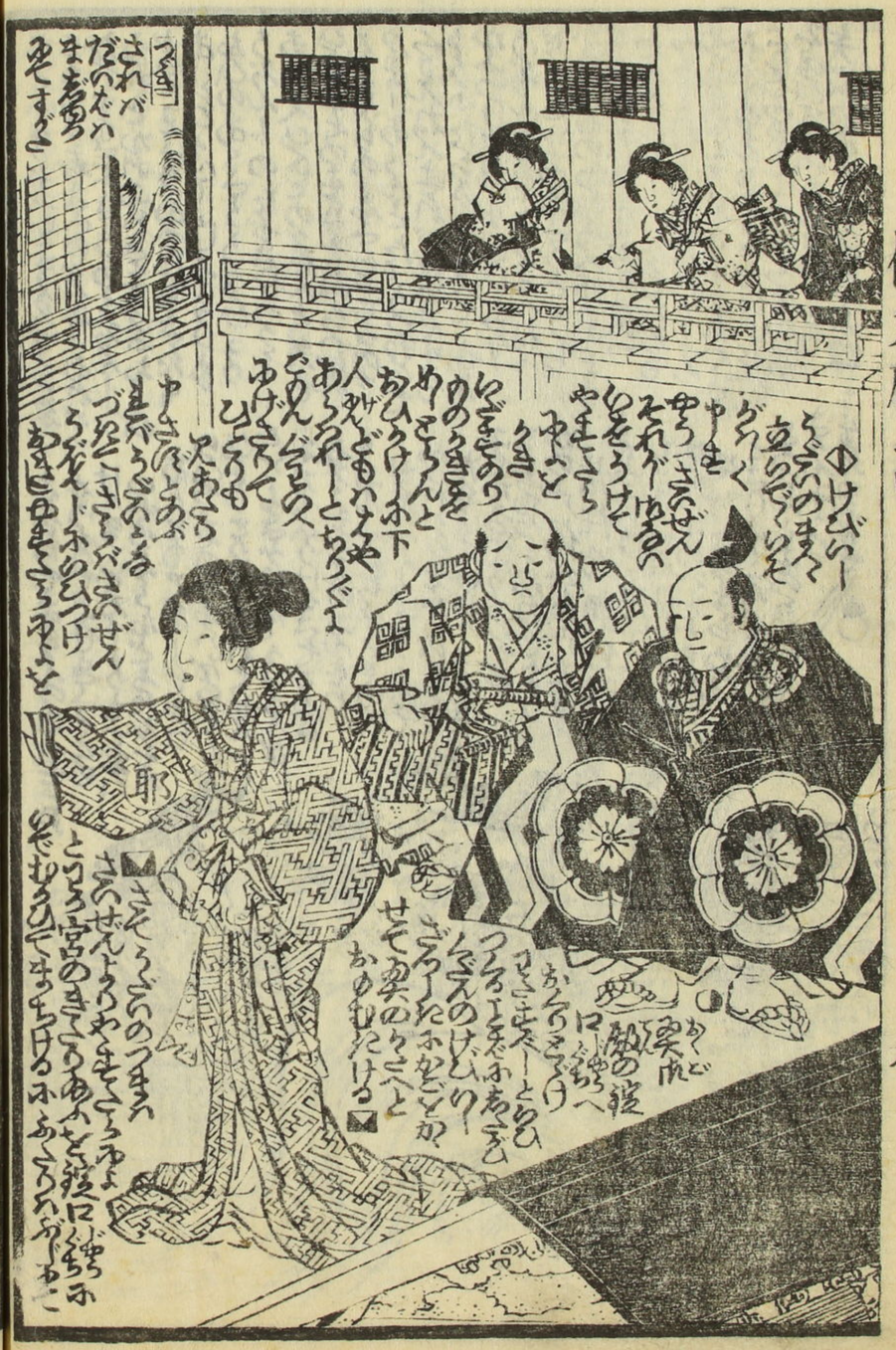
私良摩國の達婆
耶愉陀羅女の侍女中

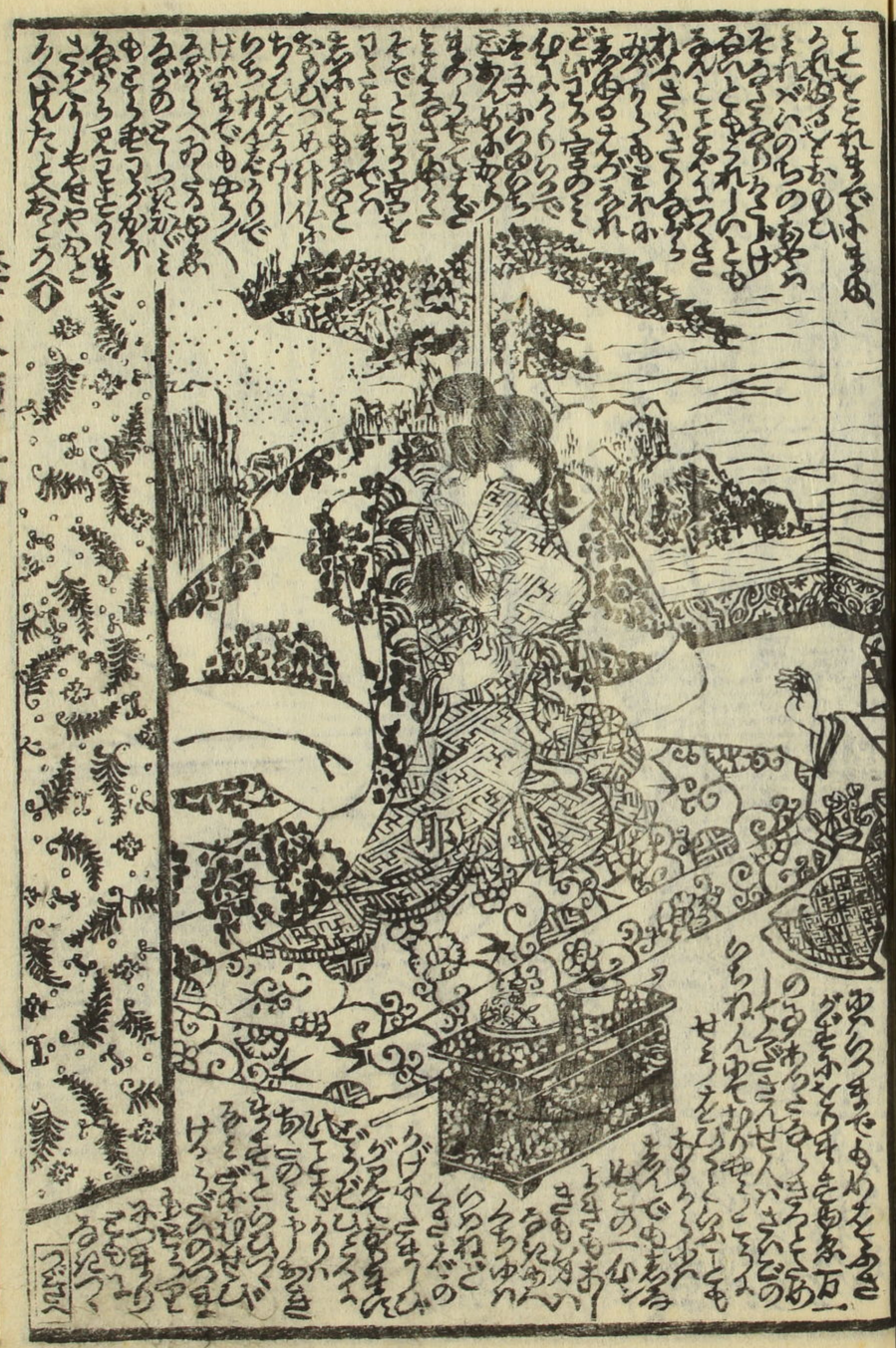
太子非人をかくして耶愉陀羅女を奪ふ
耶愉陀羅女

子兎

用水







# 應賀作　豐國画

嘉永三年庚戌春新板目録

奥奉公娘一代成人双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

二編

倭文庫太子双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

武藝立身舘双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

奥奉公出世双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

将棋双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

金地本錦繪團扇所　元大坂町代地角　上州屋重藏版

嘉永三年
庚戌春
新刊

一陽齋豊國画

錦重堂板

下

屋満を
ぬんと
千年長
下の春
慶賀
壹園亜
庚戌
初春
門人園亜

福
三
福
下のまつ

つゞき　雨とまのぐたらく人又千手
ハ人をもつてとるとて人のやまひをとりぬきに
又おびやかす大徒とてある事ハ
ほう術那らく術れいや術磨ぎ加持ぎ
とを四ツの法れとあるとて四林のそと
ゆ見つてのちかとりとるのるうとそれらの
ことをこきまくて木と石くるとたゞ
られる子い人ゆくせきゆしてるうくその
ぎいのぎ見ことをきもそをるれゆうきく
ヤアあるうりのようきけよ
むみかとくるのこうぎ
るちがを見べでひと
えをのようとそのちう
らうりそのうがかハ
らちかそらく
なくの虫ども
きとうとき
れがむうく
はアゆう
のんをちう
うつとハ
の目ぎ
なのし
それやと
とえどう
つまと
又ゆや
とうそ

大手のこうぎを
かつこうこうとまる
るうこうをぐて「のみ
をを迷まちゆ人呼の
ゆをせいさるとぐう
りとうぐまのこうう
ぎををうぎをうるうえの
とうれがそれいとえハ
四をてたぐこうれが仙人又ハゆう
きくぐけつこいゆうもせんが又をれ
るうを見のえぎハるハ四をたきぐハ
をうをえ人ぐこりゆもとれいとうの
ゆがつこれゆきけーをこれどきはん
呼のあるせあいゆちぐまんを
つーめとそれゆるを女のひうして
のめをうけまをとうりぬるをしうがを
をそこうりこうりのをうれとえけれい
ひろのーとありのをうれのゆを
ゆをやそれハ又るれとぐやつうが
まめをーいつをうのかをむう
るをとのをとえたとえふーをう
の女とのんどもさけるをハけが
れこをそも人のあこるうのをを
うけぬとあれいをの人のうをこけ
をあぐるをるるがをたとえをいで
ををぐゆを米一粒ををとそれど
ををともその人のをんとんハ
ムをう天ゆりゆうのをうぎ◎

◎又万金
とうどこ
をもとも
をあぐを
ありけれいをち
アをうの米ゆも
ちうをうをえハ
をうをうゆ夜ハう
をれをもをく
げるんをりゆう
をうるををを
をくぬをうをあ
をくふをうハゆをうれ
をとつけうちゆーをうく
をうれてををハをを
つるををとーまを
ゆをあけく

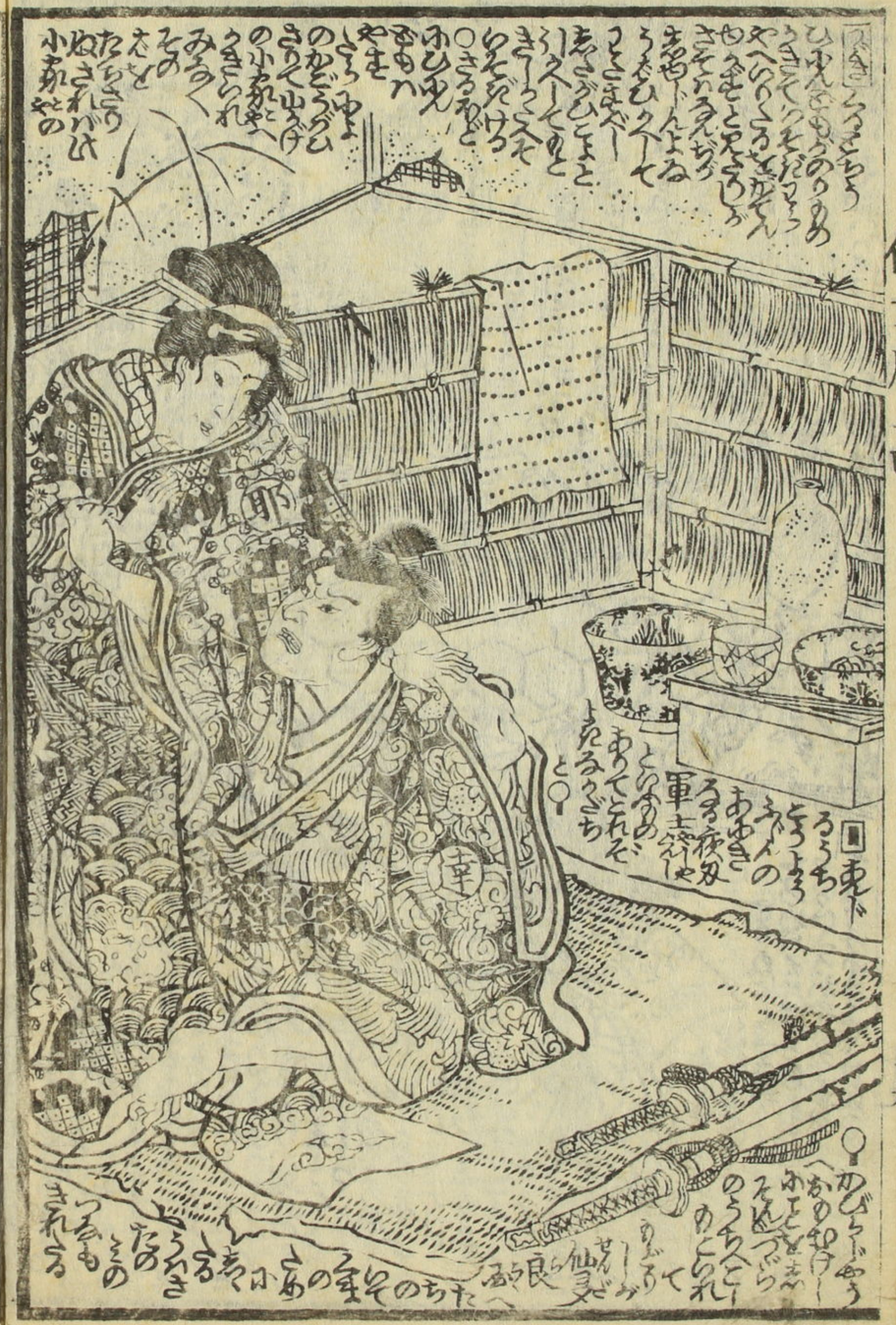
つゞき

つゞき

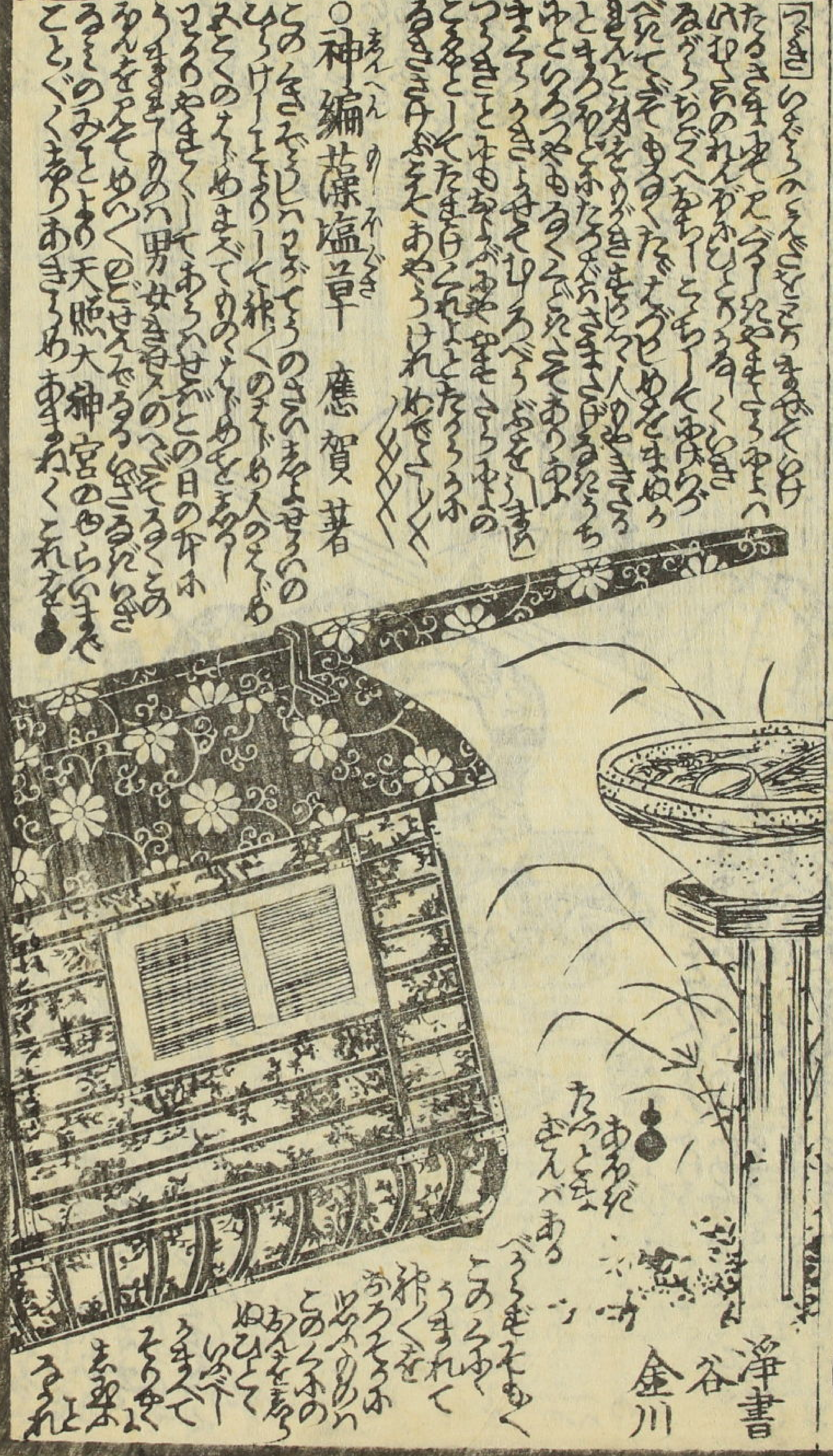
八ウラブ師よ

女

施行

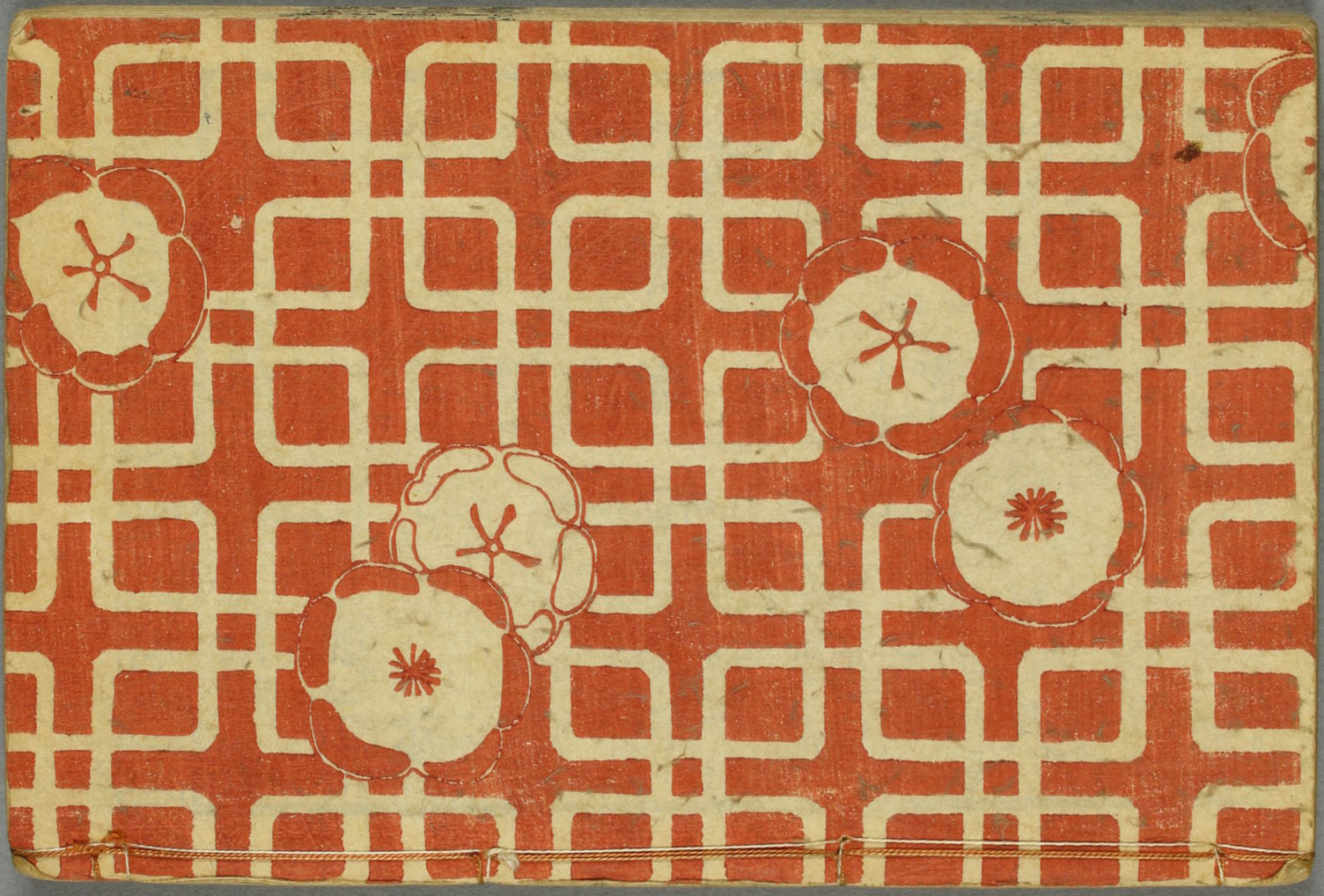


# 万亭応賀作　一陽斎豊国画




# 錦重堂新板繪草紙目録

- 釈迦八相倭文庫　十四編 十五編 十六編 十七編　万亭応賀作　一陽斎豊国画
- 忠義誠赤松譚　四編 五編 六編 七編　如淵外史作　一陽斎豊国画
- 神代藻塩草　二編　万亭応賀作　一陽斎豊国画
- 紫菜浅草土産　五編　十返舎一九作　一陽斎豊国画
- 日蓮記旭衣　二編　万亭応賀作　一陽斎豊国画


重繪草紙錦繪本類
元大坂町代地角　上州屋重蔵版